

令和３年度長野市スポーツ推進審議会（第５回）会議録

日 時	令和３年 10 月 19 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
会 場	ホワイトリング 会議室 2
出席者	委員 10 名（欠席委員 2 名）、オブザーバー 1 名、事務局 12 名
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 事 (1) 第三次長野市スポーツ推進計画の素案（施策 2）について 資料 2-1, 2-2 (2) 計画の推進について 資料 3, 4 (3) 第三次長野市スポーツ推進計画素案（第 1 章～第 4 章施策 1）について 資料 5 (4) その他 4 そ の 他 5 閉 会
議 事	（議事進行 堀江会長） 議事(1)：第三次長野市スポーツ推進計画の素案（施策 2）について 事務局より資料 2-1、2-2 について説明。以下質疑応答。 施策 2 スポーツを通じた交流拡大の推進 <施策 2-1 地域密着型プロスポーツチームとの連携の推進> A 委員：地域密着型プロスポーツチームとの連携の中で、「スポーツの習慣化」とあるが、「自宅等でできるスポーツに関する情報発信」というのが市民の皆さんにはイメージしづらいと思う。情報発信というのは健康増進に関することなのか。また、部活動の適正化について、施策 1 に「世代に応じたスポーツプログラムの提供」と示されているが、中学校の部活動のあり方や指導の体制について、B 委員のご意見を伺いたい。 事務局：「自宅等でできるスポーツに関する情報発信」については、ストレッチなどの簡単なトレーニングを考えている。地域密着型プロスポーツチームは 4 つあり、長野市の大切な財産と考えている。今後プロスポーツチームとの連携を進めていく中で、簡単にできるスポーツの情報発信を通して、見た方がチームに興味を持ち、会場に来ていただくことはポジティブサイクルにつながるので、実施していきたい。 B 委員：プロスポーツチームとの連携によって、1 つの部活動が広がる可能性があ

	ると考えている。また、総合型地域スポーツクラブについても触れられていたが、部活動が様々なところと連携することによって世界が広がっていくと思う。部活動は学校教育の中でもとても意義のあるものと考えているが、部活動の「中身」の部分で課題が出てくるので、一緒に解決しながらスポーツの発展に繋げていけたらと思う。
C委員	：資料2-2のスポーツまちづくりの連携推進ビジョンのイメージの部分でビジョン（目指す状態）に、地域経済の拡大のみではなく、健康面に関する価値観も入れたら良いと思う。
事務局	：検討させていただく。
D委員	：「観るスポーツ」について、以前スピードスケートのパシュートを見に行ったことがあるが、競技の詳しいルールを説明してくれて、知らないスポーツであったが興味を持つことができた。観に来た人が全員ルールを知っている訳ではないので、他の競技においても、詳しい説明を付けてくれると観に行った人がファンになるきっかけになると思う。
事務局	：「観るスポーツ」に関しては共催事業が多いが、今後主催者とも話していきたい。
E委員	：「するスポーツ」「観るスポーツ」「支えるスポーツ」3つの要素が市全体で活性化していくと、相乗効果もあり、より経済が活性化していくと思う。プロスポーツチームを運営している側として、市民の皆さんの役に立つために、試合に観に来ていただくというのはもちろん、実際にスポーツをやっていただくこと、ボランティアとしてご協力いただくことを通して、まちの促進に繋げていきたいと考えている。観光の面でも試合をきっかけに経済の促進に役立てればと考えている。また、部活動の面では、指導者の交流という面でスポーツ課と連携しながら行っていきたいと思う。
副会長	：情報発信という面で、市のホームページがとても分かりづらいと感じる。欲しい情報にすぐに辿りつけないので改善して欲しい。
C委員	：各学校で重点スポーツを決めて、学校単位に縛られず、生徒がやりたいと思っている部活動ができる仕組みがあればいい。
E委員	：ゴールデンエイジの時期に色々なスポーツに触れ合う機会があればいいと思うが、お子さんの送り迎えが難しくて機会を持てない家庭もあると思

	う。スイミングスクールは送迎バスの仕組みが発達しているので、スイミングスクールのバスと連携して、色々なスポーツクラブへ送迎してもらえる仕組みがあれば、色々なスポーツを色々な地域で体験することができると思う。 事務局：皆様からいただいたご意見を念頭に置きながら、将来に向けて検討していきたいと思う。 D委員：ソフトテニスのチームに所属しているが、長野市のホームページにチームの連絡先が掲載されておらず、連絡が取れないということがあった。ホームページやSNSの中で、スポーツごとに団体の紹介をしてくれると市民がスポーツを気楽にできるようになると思う。 事務局：個人情報の関係もあるので、研究していきながらSNS等で情報発信することも検討していきたい。 F委員：地域密着型プロスポーツチームとの連携の中で、「総合型地域スポーツクラブ等へのスタッフ・選手の派遣」との記載がありとても嬉しく思う。是非お願いしたい。また、部活動の適正化については、スポコミ東北では東北中学校と連携している。教員の負担にならないように、そして生徒の思うように部活動ができるよう取り組んでいるので、今後も活動を続けていきたい。子ども達の運動離れは大問題であるので、子ども達がスポーツに興味を持てるように情報発信も含めて努めていきたいと思う。 G委員：「観るスポーツ」「支えるスポーツ」が興味のある部分で、ママさんバレーボール連盟として長野マラソンや、世界バレー、スケート大会などにボランティアを派遣した経緯がある。プロスポーツに関することについては敷居が高く壁を感じているのが現状である。以前プロスポーツチームとママさんバレーボール連盟の予定が被ってしまった時、直接交渉したことがあったが、問題なくスムーズに施設を利用することができた。プロスポーツチームとの橋渡しをスポーツ課で行っていただけると嬉しい。 <施策2-2 国際大会や全国大会などの誘致・開催> H委員：社会人バスケットボール連盟として、全国大会などの誘致を行っており、その際にながの観光コンベンションビューローにご協力いただいた経緯がある。観光振興課にも協力いただけることは知らなかった。大会で県外から来た人に試合の合間に行ける観光スポットを聞かれることが多いので、会場に観光振興課の方に来ていただいて、観光スポットなどを紹介し
--	---

	てもらえるとありがたい。 事務局：ながの観光コンベンションビューローは観光振興課の外郭団体にあたる。誘致等に関することは、ながの観光コンベンションビューローが担当しており、ある程度の規模のものは助成金を出している。アフターコンベンション（大会中、大会後）の部分の対応も行っているので、お気軽に担当者へお声がけいただければと思う。 会長：プロスポーツチームの大会は前日くらいに会場入りするが、国際大会となると、かなり前から現地に入るため、宿泊施設や練習会場の確保が必要となる。長野市にはメイン会場だけではなく、多くの素晴らしいスポーツ施設があるので、会場を効率的に使えるように対応していけるといいと思う。 議事(2)：計画の推進について 事務局より資料3、4について説明。以下質疑応答。 会長：サッカーの入場者数について、松本市との人口比の比較をすると差が大きいように感じる。プロスポーツクラブも努力する必要があるかと思うが、多くの市民にスポーツに興味を持ってもらうことが、今後スポーツを盛り上げるための課題となると思う。 C委員：資料4の「オリンピック教室」の表記を「オリンピック・パラリンピック教室」としていただけると、障害のある方の競技もオリンピック同等の価値であるということが分かると思う。 事務局：施策2-3「オリンピック・パラリンピックムーブメント」の表記が、以前は「オリンピックムーブメント」だった。「オリンピックムーブメント」というのは「平和」という意味があり、「パラリンピックムーブメント」は「共生社会」という意味がある。指標にある「オリンピック教室」というのはJOC（日本オリンピック委員会）と長野市がパートナー都市協定を結んでおり、「オリンピック教室」というのは協定を結んでいる都市でしか開催できないものである。オリンピックの派遣等はJOCで段取りしており、それにかかる費用を長野市が負担している。この教室は中学校2年生を対象に行うもので、平成27年度から開始しており、令和8年度には1,800人（市内の中学2年生の60%）が体験することを目標としている。パラリンピックについては、JPC（日本パラリンピック委員会）で
--	--

	も派遣事業を行っているが、東京 2020 大会を契機に始まったばかりである。もう少し教室の体制づくりが整ったところで指標に入れていきたいと思う。 議事(3)：第三次長野市スポーツ推進計画素案（第1章～第4章施策1）について 事務局より資料5について説明。 議事(4)：その他 オブザーバー：2028年に長野県で国民スポーツ大会が予定どおり開催される。競技力向上対策本部を中心に天皇杯、皇后杯優勝を目指して準備を進めている。今後の課題として、残り6年間の中で選手や指導者を250人から300人集めることが必要であり、集まらないと総合優勝はできない状況である。長野市にも指導者や選手の雇用という面でお願いする可能性もある。国民スポーツ大会長野県開催で天皇杯、皇后杯を獲得できるようにご協力をお願いしたい。 文化スポーツ振興部長挨拶 以上
--	---